

都市民俗学はどこへいったのか

Where Have Urban Folklore Studies Gone?

小池淳一

KOIKE Jun'ichi

はじめに

①民俗学における都市という問い

②団地と江戸と

③世間話と芸能と

④都市をどのようにとらえるか

おわりに

【論文要旨】

1970年代から80年代にかけて盛んに論じられた都市民俗学はどのように形成され、どういった可能性と限界とを持っていたのだろうか。本稿はそうした問題について、都市民俗学の模索段階、形成期について検討し、その様相について論述を試みる。さらに都市民俗学を表面的には標榜しなくとも、都市をとらえた民俗研究を検討し、その可能性を指摘する。ここでは特に世間話や個人に関する着目が重要であったことを確認する。全体として、都市民俗学は現代社会や民俗変化を対象化するムラを超える民俗学へと民俗研究が発展的に解体する過程と位置づけることができ、そこで問い合わせや模索された対象や概念化の取り組みは、現代における民俗的諸事象との対峙を志向する研究へと分節化されたということができるのである。

【キーワード】団地、江戸東京、都鄙連続論、世間話、個人、現代